

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



「大江湿原獣害対策事業（尾瀬岳国有林）」
（撮影者：会津森林管理署南会津支署）

- 「森林管理局直轄治山事業技術交流会」開催 治山課 2
- 『第56回治山研究発表会』が開催されました 治山課 3
- ～第36回木と暮らしのふれあい展～
森を育てたい。だから木を使おう 東京事務所 4
- 高尾の森から 高尾森林ふれあい推進センター 5
- 森づくり最前線
利根沼田森林管理署 追貝森林事務所 森林官 鎌田 牧人 6

「森林管理局直轄治山事業技術交流会」開催

計画保全部 治山課

林野庁主催の森林管理局直轄治山事業技術交流会が10月19日～21日に各森林管理局、事業担当者26名の参加のもと大井川地区民有林直轄治山事業地（静岡県）において開催されました。

※直轄治山事業とは、国有林内及び民有林内において国が直接行う治山事業。
近年の激甚な山地災害の発生状況



室内討議

等を踏まえ、林野庁が実施する直轄治山事業を効果的・効率的に事業を推進していくとともに、都道府県が実施する民有林治山事業への支援を円滑に進めるため、調査・計画・施工等に係る関係職員の技術力の向上を目的としています。
また、集中豪雨、地震及び火山噴火等の災害が発生する一方、事業実施にあたっては溪流生態系の保全等



会場の崩壊地の説明



崩壊地の施工順序等の検討

の高度化も求められており、幅広い技術的視野に立った対応も必要となっています。

大規模崩壊地の施工においては、工種の選定・配置、安全を考慮した施工順序、資材の搬入の方法等について議論を行い、実際の施工箇所を見ながら大井川治山センター職員から説明されました。荒廃溪流の施工においては、復旧後の水の流れを想定した設計の技術向上を図りました。

また、民有林が施工地となっている事業地では、地元調整、土地所有者への対応の難しさから、上下流一体となった復旧整備が進まない等の問題点についても、各局事業担当者で活発な議論が行われ有意義な技術交流会となりました。



荒廃溪流での設計の検討（セルダム）



崩壊地の資材運搬方法の検討

『第56回治山研究発表会』が開催されました

計画保全部 治山課

治山研究会主催の治山研究発表会が平成28年9月26日、27日に東京都渋谷区代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで各森林管理局、地方公共団体、各大学、民間事業体等の参加のもと開催されました。

【治山研究発表会】

1日目の発表会に先立ち、茨城大学広域水圏環境科学教育センターの



発表する堀内設計指導官

桑原祐史教授から「治山におけるリモートセンシング技術の応用」と題しての特別講演が行われ、衛星リモートセンシングの種類と特徴、衛星観測技術の動向等の紹介と治山事業へのリモートセンシング技術活用の可能性が紹介されました。

※衛星リモートセンシングとは人工衛星に専用の測定器（センサー）を載せ、地球を調べる（観測すること）。

- 本発表会では
- 1 「荒廃地調査と復旧対策等の取組」
 - 2 「防災林の造成」
 - 3 「違法開発への対応強化等の取組」
 - 4 「施設の維持管理・木材の利用等の取組」の4つのセクションに48課題が発表されました。

当局からは、「荒廃地調査と復旧対策等の取組」のセクションに、治山課堀内設計指導官と朝日航空株式会社東京防災コンサルタント部の小林裕太氏及び同社東日本航空支社第一営業部の加藤真也氏による「航空

実播工における新たな取り組みと奥地・寒冷地の三次元写真計測と散布材料に関する考察」を発表しました。

※航空実播工とはヘリコプターを使用して種子等の緑化材料を崩壊地へ散布して緑化する工法。

本発表は、高標高・寒冷地では植物の生育期間が短く、凍結融解等の影響を受け侵食を受けやすい等の条件下で、植物の初期生育の改善及び侵食防止力の向上を目的とする緑化材料の検討と試験施工の紹介及び、現地を計測し施工面積の把握する作業に苦慮する高標高で遠隔地の崩壊地で、ヘリコプターから撮影した連続写真を元に三次元モデル（立体画像）を作成し、現地計測を実施せず施工面積を迅速確実に把握する手法の可能性を紹介しました。

【治山シンポジウム】

2日目には「海岸防災林を考える ～東日本大震災から5年～」をテーマにしたシンポジウムが開催されました。

太田猛彦東京大学名誉教授から「海岸防災林再生の現状と課題」

東北森林管理局大野泰宏治山課長から「東北森林管理局における海岸防災林の復旧・再生の取組」
森林総合研究所東北支所坂本知己

地域研究監から「津波後の海岸林研究」

の話題提供があり、座長に鈴木雅一東京大学名誉教授を迎え、有識者及びパネリストによる被災した海岸防災林の現状、復旧、再生等に向けた議論が活発に行われました。



2日目「治山シンポジウム」



開会式での沖次長祝辞



森林クラフト体験で賑わう東京事務所ブース

第36回 木と暮らしのふれあい展
森を育てたい。だから木を使おう

東京事務所

東京都民の方に木と触れあえる機会を提供し、木に対する理解を深め、木材が循環資源として優れた素材であることや木材の利用が森林の育成に深くかかわっていることなどを理解していただき、木材の需要拡大を図ることを目的とした「第36回 木

と暮らしのふれあい展」(主催…東京都・(一社)都木連、協賛…関東森林管理局東京事務所等)が、10月22日(土)・23日(日)の2日間、江東区の木場公園において開催されました。

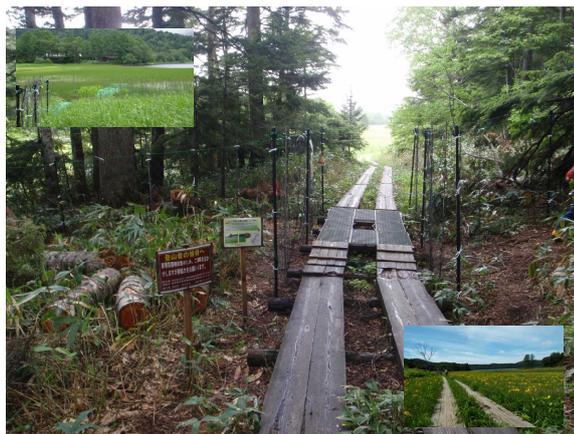
この、ふれあい展には、東京都木材団体連合会、東京木材問屋協同組合、東京都森林組合連合会など木材・林業関係の21団体が参加し、木工教室

木製品の展示
苗木配布会、
木製品の販売
などが行われました。

東京事務所も、木の輪切りホルダー作り・木の実リース作りなどの森林クラフト体験とパンフレットの配布等を行い、木材・森林・林業等について情報発信を行いました。天候にも恵まれ2日間で、昨年より5千人多い、6万5千人の方に来場いただきました。

今月の表紙

「大江湿原獣害対策事業」



写真の場所は、尾瀬国立公園でもある尾瀬沼の東に広がる大江湿原を取り囲む福島県檜枝岐村の尾瀬岳国有林です。ニホンジカによる被害が各地で広がる中、大江湿原においても植生被害が増加し、森林生態系への影響だけでなく、ニッコウキスゲなどの減少による観光面への打撃からも、湿地を囲むように約3・5kmに高さ2mの金網柵を設置しニホンジカの侵入を防ぐ事業を行っています。

平成27年度には、水際からのシカ侵入に対して水面にネットを浮かべるなど改良を図りました。また、南会津尾瀬ニホンジカ協議会によるシカ柵巡視や、わな設置等の活動と連携し、ニホンジカによる食害防止に成果をあげています。



高尾森林ふれあい推進センター庁舎の展示室及びクラフト体験室において、「山の日」を記念したイベントを8月8日から14日まで開催しました。



【森林教室の開催】

「いのちの森高尾山(DVD)」を活用した森林教室を、センター所長が実施しました。



【期間限定・クラフト体験】

「夏休み特別クラフト体験教室」を開催しました。期間限定で、小学生以下の児童を対象として日替わりで作るクラフト作品を林野庁・局・センターHP等で紹介したところ、隣接する「TKA O599祭」の来場効果もあり、連日家族連れで満員御礼・大好評でした。夏休み満喫中の子どもたちは、指導にあたったインタプリタに木の实の名前や工作のコツを教えてもらいながら、楽しそうにそれぞれ工夫して自分だけの作品を作り上げていました。



【森林の働きを紹介するパネル展示】

高尾山を訪れる人々に高尾山の国有林や自然のこと、森林・林業のことなどを知ってもらうため、樹木の標本等の展示、森林ふれあいイベント情報発信及び森林の働きを紹介するパネル展示等を開催しました。

情報誌「林野-RINYA」に掲載されている林業漫画「お山ん画」も併せて展示したところ、多くの方が食い入るように見ていました。



平成28年度上期(4~9月)センター施設利用状況等

(単位:人)

平成28年度	センター庁舎			森林教室、公募イベント等		キャンプ場(c)	計 (a+b+c)
	展示室	木工室	小計(a)	回数(回)	参加数(b)		
4月	1,262	350	1,612	1	93	552	2,257
5月	2,342	655	2,997	5	334	1,076	4,407
6月	1,277	379	1,656	2	192	869	2,717
7月	1,661	620	2,281	1	28	1,010	3,319
8月	2,345	1,249	3,594	0	0	1,063	4,657
9月	1,212	508	1,720	3	227	647	2,594
計	10,099	3,761	13,860	12	874	5,217	19,951

平成28年度上期森林環境教育(森林教室)及び当センター施設利用状況は左記のとおりとなっています。

※森林ふれあい推進事業の協定イベント(関東森林管理局長との協定締結イベント:5団体)開催は除く。

森づくり最前線

利根沼田森林管理署 追貝森林事務所 森林官 鎌田 牧人

私が勤務する追貝(おっかい)森林事務所は、群馬県の北東部、沼田市から国道120号線を尾瀬方面に向かい、椎坂トンネルを抜けた沼田市利根町(旧利根村)に位置し、日本百名山の皇海山(すかいさん)を擁する栃木県境までの約11000鈔を管理しています。



皇海山

事務所の近隣には、東洋のナイアガラとも言われ、上毛カルタに「滝は吹割 片品溪谷」と歌われた「吹割の滝」があり、多くの観光客で賑わいます。また神話時代に「赤城の神」(大蛇)が戦場ヶ原で「日光の神」(ムカゴ)と戦った折、傷を癒やしたとされる老神温泉は傷に効く美人の湯と言われ、毎年5月に行われる大蛇祭りで使用される大蛇みこしは108鈔あり、祭り用の蛇の長さとしては世界一として2013年



吹割りの滝

にギネス認定されました。当事務所の特色の一つは、追貝から根利に抜ける総延長41kmの根利栗原川林道で、併用林道となっており、誰でも通れる林道としては関東随一の長さです。

中間地点には皇海山の登山口があり、多くの県から登山客が訪れます。近年この林道において、車で危険走行をしている様子を動画サイトに上げている人物がいると市民からの指摘を受け、沼田市利根支所と合同で注意看板を設置し、県警にも情報共有したところです。オフロードバイクの専門誌にもこの林道の特集が組まれるなど、林道走行が目的の方々が増えている昨今です。



根利山に残る坑木を搬出するための施設跡

この長い林道が出来る遙か以前、明治31年から昭和14年にかけて、この奥山に2千人もの人々が住み、県境を越えた足尾銅山に坑木を供給するための一大基地があったことはあまり知られていません。

昨年12月に首席森林官(南郷・根利)らとともに現地を訪れて見たところ、かつて人々が暮らしたその面影が、静かに森に還りつつも、確かな遺構として残っていることを確認しました。

林内に目を向けると、その7割は天然林、3割が人工林で、当事務所でも鹿・熊による剥皮被害を受けており、スギだけでなく、カラマツまで被害を受けている状況です。これまで、獣害対策も行ってきましたが、手遅れの様相を呈している

林分も多く見られます。低コスト化が叫ばれる中、主伐リストに載った山をどのように扱っていくのか多くの課題はありますが、後生に残せる森づくりを行ってみたいと考えています。



剥皮被害を受けたカラマツ林

10月1日付け
群馬森林管理署
首席森林官(松井田・細野)

発行所 関東森林管理局
編集 総務課
TEL(027) 210-1158
FAX(027) 230-1393